

2 - 12 - 1 照蓮寺本堂（国指定重要文化財）

所在地	高山市堀端町 8 番地（城山公園内）
所有者	照蓮寺
指定年月日	昭和 31 年 6 月 28 日
構造形式	入母屋造 栩葺形銅板葺

浄土真宗の寺院では日本最古の建物といわれ、昭和 35 年に合掌造りで有名な莊川村（現在の高山市莊川町）から、高山城二の丸跡へ移築された。永正年間（1504 年から 1521 年）の建立と伝えられるこの本堂は、書院造を基調として、道場発祥の過程を物語る。

かつては莊川村中野にあり中野御坊と呼ばれてきたが、御母衣ダムが建設されることになり、昭和 33 年～35 年にかけて現在地に移築された。

一本の大杉を使って建てられたと伝わる書院造りの本堂は、長さ 7 間の長大な梁や、緻密な木目の板材など見所は多い。山々の形にも似た緩やかな屋根の曲線は、飛騨の寺院建築を象徴する優美さの一つである。

延宝 6 年（1678 年）の棟札や小屋束の墨書から、当時の流行であった本願寺式急勾配の屋根に改装されていたことが分かり、移築の際に創建当初の緩やかな屋根に復元された。杉柱目の柱に取られた大きな面、柱の上の美しい曲線を描く舟肘木、広縁内部の調和のとれた舞良戸と明障子など、仏壇構えの内陣と共に上品な雰囲気漂う。

説明板より